

令和5年度

特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和5年9月1日から令和6年8月31日)

■日本レスキュー協会全体の動き P：2

- ・組織
- ・組織の動き

■事業の成果

【災害救助犬事業】 P：3～5

- ・災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・育成
- ・活動資金
- ・その他

【セラピードッグ事業】 P：6～7

- ・被災地慰問
- ・福岡県ワンヘルスの取り組み
- ・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム
- ・活動資金
- ・その他

【動物福祉事業】 P：8～10

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応
- ・ペット防災に関する活動
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・活動資金

【佐賀県支部】 P：11～14

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・動物福祉事業関連
- ・大町町地域おこし協力隊
- ・大町拠点「MORE WAN」に関して

【企画広報事業】 P：15

- ・収入
- ・ご寄付ご支援

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織

理事長 : 多田 修
副理事長 : 松崎 直人
理事(相談役) : 吉永 和正
理事 : 河合 伸朗
理事 : 北畑 英樹
理事 : 岡 武
理事 : 安随 尚之
理事 : 高木 美佑希
理事 : 赤木 亜規子
理事 : 辻本 郁美
理事 : 伊藤 美貴
監事 : 鵜飼 卓

職員数 : 13名

(事務局) 多田 修

(事務局) 松崎 直人 (事務局長代行)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)
高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)
三枝 和佳 (災害救助犬事業スタッフ)
野田 尚貴 (災害救助犬事業スタッフ)
赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)
松崎 直人 (企画広報責任者)
南園 彩子 (企画広報スタッフ)
辻本 郁美 (動物福祉事業責任者)
赤窄 達也 (動物福祉事業スタッフ)

(佐賀県支部)

岡 武 (佐賀支部支部長)
織口 真己子 (佐賀県支部全般スタッフ)
平田 朱里 (佐賀県支部全般スタッフ)

(管理部)

伊藤 美貴 (経理総務責任者)
清水 秀和

・組織の動き

入職 : 2名 (事業部)
吉川・若杉

■事業の成果

【災害救助犬事業】

令和5年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・災害対応

■石川県能登半島地震

2024年1月1日16時10分に発災した震度7の能登半島地震を受け、同日20時03分に災害救助犬2頭、隊員5名が本部を出発し、珠洲市にて10日間活動しました。

通行止めや渋滞により進行が阻まれる中、1月2日15時36分に珠洲市役所に到着。現場はまだ緊急消防援助隊が到着していなかったことから、マンパワーが明らかに不足し、私たちも通報があった家屋を一軒ずつ巡回しました。

1月3日、緊急消防援助隊が珠洲消防署内に入り、それに伴い私たちもその指揮下で消防・警察・自衛隊と連携し活動を開始しました。また全国各地の救助犬団体が集結したことから、現場の混乱を防ぐため救助犬窓口を担い、救助機関および各団体との調整業務を果たしました（9日間で8団体、108名、75頭を調整）。また、1月6日と10日に活動した倒壊家屋では、救助犬の反応箇所付近でご遺体が発見されたと報告頂きました。1月11日、珠洲市内において救助犬の要請が無くなったことを確認し、現場を撤退しました。

1月24日、石川県から搜索要請があり、26日に隊員3名救助犬2頭が輪島市市之瀬地区土砂災害現場で活動しました。現場は、大量の土砂が広範囲にわたって流入し、全容の把握もままならない厳しい状況でした。残念ながら犬たちからの情報は得られず活動を終了しました。

今回の災害対応を通して、消防署に詰め救助犬の調整業務を果たせたことは大変有効な活動でした。まだ殆どの救助隊が救助犬を知らないという状況でしたが、それでも前向きな救助犬の運用が検討され、関心度や期待度は向上していると感じることが出来ました。

（詳細は、特別号 vol 1 を参照ください）

・災害救助犬の標準化に向けた事業

■富田林市消防本部（2023年9月22日、10月11日、12月6日）

富田林市内の救助隊に向けて座学を行い、その後二上山にて山岳連携訓練を行いました。人の目視だけでは搜索が困難な登山道から外れた山林内の斜面で、災害救助犬の特性を生かした効果的な搜索活動を連携して行い、行方不明者を発見することが出来ました。

救助犬について初めて学ぶ隊員の方が殆どでしたが、訓練を通し、今後市内において積極的に救助犬の運用を検討したいと意見交換させて頂くことが出来ました。

■川西市消防本部（2023年10月4日、10月5日）

川西市消防本部にて、高所での昇降訓練を中心とした救助犬の輸送訓練を行いました。装備の説明やロープの取り扱い方など、ハンドラーのスキルアップも目的とした訓練を計画して頂きました。また、毎年救助犬と関わって頂くことで顔の見える関係性の構築が進展しています。

■佐賀県消防学校（2023年11月9日）

昨年に引き続き、佐賀県下5つの消防本部（佐賀広域消防局、杵藤地区広域市町村圏組合消防本部、唐津市消防本部、鳥栖・三養基地区消防事務組合消防本部、伊万里・有田消防本部）の次期救助隊員の教育課程の一環として、災害救助犬の座学と実演を行いました。今回受講された隊員の皆様がそれぞれの所属

本部で認知して頂くことで、佐賀県内での救助犬の活動は加速していくと実感することが出来ました。

■神戸市消防局（2023年11月14日）

神戸市消防局とあいな里山公園内にて山岳捜索連携訓練を行いました。災害救助犬による捜索訓練だけでなく、急斜面における救助犬とハンドラーの安全な走行、ドローンの活用、また首輪にGPSを装着し犬の動きを可視化して捜索範囲を絞るなど、様々な手法を検証を交えながら進められました。2016年から本格的に動き出した連携訓練は近隣の消防や地域にも浸透しています。他の救助犬団体も関心を寄せて頂き、愛知県から2つの救助犬チーム（捜索救助犬愛知/HDS-K9）が参加しました。

■交野市消防本部（2023年12月19日、20日、2024年3月13日、14日）

9月に締結した協定を機に、座学と交野山で連携訓練を行いました。まずは救助犬が救助活動の一つの手段である共通認識を持ち、顔の見える関係性の構築を目指しました。交野市内では初めての訓練でしたが、救助犬の特性を知って頂くことが出来たと思います。新たな一步を踏み出し、今後は一つ一つの訓練を通し連携力を高めていきます。

その他、協定を締結している地域の防災訓練に参加しました。

■協定締結

新たに5つの自治体、1つの消防組織と締結し、協定先は61か所となりました。

■冊子作成

一般用と救助隊用の冊子を作成しました。協定先や訓練先に積極的に配布しています。

■他機関（団体）との訓練

長野県八ヶ岳国際救助犬育成センターや愛知県の山を使用して、他の救助犬団体と合同訓練を行い横の繋がりの強化を図りました。

・育成

災害救助犬候補犬の導入

2頭（2024/3/13生、ジャーマンシェパード、雄）

災害救助犬訓練犬リタイア、引退

2頭（2024/5/25、2024/7/27譲渡）

・活動資金（計 11,590,729円）

■企業支援 / 助成金 / その他

- ・東京センチュリー株式会社（¥903,750）
- ・一般社団法人生命保険協会（¥600,000）
- ・サントリーホールディングスたすけあい募金（¥99,875）
- ・神戸マラソンフレンドシップバンク助成金（¥200,000）
- ・真如苑助成金（¥300,000）
- ・Yahoo!基金 2024年度 被災地復興・防災・減災活動支援（¥1,305,220）
- ・CAMPFIRE クラウドファンディング（¥1,103,000）
- ・その他、講演デモンストラーション派遣料、授業料等（¥3,802,008）

■Yahoo! ネット募金 (9月～8月)

1,118,474 円 (毎月の継続寄付者 41 名)

(能登地震 69,906,695 円)

■Syncable (クラウドファンディング) (9月～8月)

「災害救助犬訓練犬「湊」のバースデーネーション」(¥177,904)

「災害救助犬「楽」のバースデーネーション」(¥321,237)

「災害救助犬「カミーノ」のバースデーネーション」(¥337,074)

「災害救助犬「太陽」のバースデーネーション」(¥446,744)

「災害救助犬訓練犬「道」のバースデーネーション」(¥160,360)

単発・継続寄付 (¥715,083)

マンスリーサポーター 73 名

・その他

・災害救助犬事業人材確保

今年度、1 名新規雇用致しました。

【セラピードッグ事業】

令和5年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

・被災地慰問

令和6年能登半島地震（令和6年3月29～31日・5月4・5日／七尾市・珠洲市・能登町）

ニーズ調査の際に、現地支援団体や避難所を統括されている行政の方から、「支援活動に従事する人々に疲れが見え始めている」ということ、また、大きな災害を経験した子どもたちは、大人たちの不安や緊張を感じ取り「こんな時に遊んではいけない」と遠慮することがあると伺いました。過去の災害においても、被災地でのセラピードッグの存在は、単なる「癒し」だけでなく、精神的・社会的な支援として大きな役割を担っていると感じます。特に「支援者支援」と「子どもたちの居場所づくり」の取り組みは、被災地には欠かせない支援となります。今後も様々な支援団体と連携しながら、長期的な活動を続けていきます。

東日本大震災被災地慰問（令和6年5月31日・6月1日）※大東建託グループ「みらい基金」にて実施

■唐丹公民館・中妻公民館

発災から13年、「釜石支援センター望」では、サロン活動などを通して「コミュニティづくり」に取り組まれています。セラピードッグの訪問が共通の話題となり、隣の方や私たちスタッフとも自然に会話が生まれる場面がありました。被災地でのセラピードッグの活動が、心のケアやコミュニティ再建のきっかけとなっている事を改めて感じられました。

■ペット防災イベント（釜石市民ホール TETTO）

ウクライナから避難されている方々との交流（令和6年8月7日）

昨年に引き続き、神戸須磨ライオンズクラブ様にご支援いただき活動しました。

・福岡県ワンヘルスの取り組み

【収入】¥516,319

今年度は、発達障がい児童の個別フォローアップの継続と、「児童発達支援事業所どんぐり」の子どもたちを対象にドッグセラピーを実施、引き続き、療育・医療の専門家の方々と共に、「実施前の準備」「プログラムの実施」「事後の検証」に取り組みました。障がい児施設などにセラピードッグを派遣し、身体的、精神的健康の増進を図るモデル事業も3年目となり、これまでの活動事例や手順、配慮事項などを取りまとめた「ガイドブック」が完成しました。ドッグセラピーの効果を多くの方に知っていただくだけでなく、導入を検討されている病院や施設へ配布すればスムーズな導入に繋がることが期待できます。

■アメリカ「グリーンチムニーズ」視察（令和5年10月17日）※別紙

「グリーンチムニーズ」はアニマルセラピーを行う、障がいのある子どもを治療するための長期療養型施設です。ワンヘルスの一環として、九州地方で「グリーンチムニーズ」のような施設の設立を検討されており、日本レスキュー協会が福岡での活動を通して得た、ドッグセラピーにおける気づきや学びをこの取り組みの中で展開する事ができればその計画が実現しそうであるとお声掛け頂き、実際の運営やそのノウハウを学ぶための視察に同行させて頂きました。様々な専門家の方との連携強化と、セラピードッグを広く定着させるための第一歩としても、大変貴重な機会を頂きました。

・セラピードッグ派遣事業

■大阪母子医療センター

【 病院訪問 】 42 回／延べ 390 名

【 収入 】 ¥300,000 (大阪母子医療センター予算)

■国立国際医療研究センター病院

【 オンラインドッグセラピー 】 1 回／6 名

■施設訪問

【 訪問件数 】 123 件

【 収入 】 ¥2,942,930

■福岡県児童発達支援センターしいのみ学園 (令和 6 年 6 月 28 日・7 月 26 日・8 月 28 日)

【 収入 】 ¥150,000

■セラピードッグハウス

【 収入 】 ¥62,100

・活動資金

■助成金

【大東建託グループ「みらい基金」】 ¥1,000,000

・助成期間／令和 6 年 12 月末まで

・大阪母子医療センターで長期入院中の子どもたちへの支援活動

・東日本大震災被災地慰問

・セラピードッグ 3 頭 (みらい・ハッピー・けんた) の医療費含む育成費

■Yahoo! ネット募金

今年度寄付額 : ¥338,561

■梅花女子大学・心理こども学部心理学科／非常勤講師

後期 30 コマ (ドッグトレーニング 15 コマ・アニマルセラピー実演 15 コマ) ¥600,000

・その他

■セラピードッグ リタイア、引退／3 頭

■新規職員 1 名雇用

【動物福祉事業】

令和5年度も主に動物福祉の向上に関する活動を実施しました。

・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬1頭の飼養管理を継続、今年度は犬2頭を引き取りました。

令和5年8月31日現在、犬2頭を管理し里親募集を行っています。

・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬1頭を一般家庭に譲渡しました。

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物の一般家庭への譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬12頭と猫4頭に医療費等を支援、犬7頭と猫8頭が一般譲渡に至りました。今年度は1,593,441円を使用して支援しました。

医療費支援の財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金「行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない」から充当しました。

・災害への対応

【令和6年能登半島地震】

1月1日16時10分に石川県能登地方においてマグニチュード7.6の地震が発生しました。同日20時頃、現地での支援活動のため出動しました。

以下には概要を記載し、別添の資料で詳細な報告を示します。

<実施した活動>

- 1、ペット飼養世帯の避難状況調査
- 2、ペット用物資の調整および提供、地元企業や有志との連携（1月～）
- 3、ペット飼養世帯の避難支援（1月～）
- 4、ペット飼養世帯のための支援拠点の運営（3月～）
- 5、仮設住宅への巡回、しつけ相談対応（3月～）
- 6、ペットイベント「わんにゃん復興祭」の開催（4月～）
- 7、活動報告に関する事業

【令和6年7月豪雨災害（山形）】

7月25日からの大雨により、山形県、秋田県などで浸水や土砂崩れの被害が発生しました。山形県酒田市や戸沢村などで避難所が開設されたとの情報を受け、7月26日に山形県へ向けて出動しました。

酒田市および戸沢村の災害対策本部・災害ボランティアセンター（社会福祉協議会）へ訪問し、各地の避難所のペット避難状況調査と環境設定の提案を行いました。

避難所駐車場での車中泊も確認され、夏場であることから熱中症などの体調不良の懸念がありました。山形県および酒田市では、ペットとの避難に関して屋内での避難を想定したマニュアルが整備されていたものの、調査の結果、実際には避難所の屋内への避難は実現していなかったことがわかりました。災害対策本部・避難所担当の区長・飼い主などと協議や調整を行いました。スペースの課題や避難所側のペット受け入れ拒否などがあり、屋内でのペット避難には至りませんでした。ライフラインの回復に伴う帰宅や預かり先の確保などで状況の改善が確認されました。

8月半ばに、戸沢村と鮭川村で建設型仮設住宅が着工されることがわかり、両村の担当課に対し、石川

県での対応などを紹介し、ルール設定の補助や入居後の飼い主へのサポートができることを共有しました。活動に際し、山形県庁食品安全衛生課および最上保健所と情報交換を行いました。日本レスキュー協会が現地で活動したことをきっかけに、行政側も市町への働きかけや避難所への訪問調査を実施することとなったとのことで、感謝のお言葉をいただきました。

山形県との災害時協定締結を控えていたこともあり、県庁をはじめとする関係機関との密接な関係づくりのきっかけとなりました。

次年度以降、仮設住宅への訪問支援も計画しています。

・ペット防災に関する活動

ペット防災講座の開催

令和5年より、一般飼い主を対象としたペット防災を学ぶ講座を継続しています。一般飼い主向けとしていますが、受講者は行政関係者、ボランティア経験者、プロのドッグトレーナー、防災専門機関関係者など、各方面の方に興味を持っていただいていることを実感しています。

今年度は1月の能登半島地震以降、現地での活動を優先したため、本部での開催は中止としています。

度重なる災害により、ペット防災への関心が大いに高まっていることもあり、次年度以降は積極的に実施する計画です。

ペットとの避難に関する啓発活動

各種ペット関連のイベントにおいて、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を行いました。これまでの災害で、被災地で行ってきた被災ペットへの支援活動を元に情報発信をしています。

災害時には人命が最優先とされるため、家族であるペットの命を守るのは飼い主であるということ、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらい、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

前述のとおり、能登半島地震以降は関心が高まっており、対応件数が急激に増えています。特に行政機関からの依頼が増え、ペットの避難に関する行政の取り組みに繋げるきっかけとなっています。

・犬のしつけ方教室

本部開催のしつけ方教室を継続しています。延べ8件対応、22,000円を売り上げました。

スーパービバホーム大阪ドームシティ店「愛犬しつけ方教室」6回開催、20件、57,750円を売り上げました。今年度は能登半島地震の対応のため、1月～6月にかけて開催中止または縮小しての実施となりました。

・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は該当する保護犬がなく、実施していません。

・活動資金

助成金

ちくご川コミュニティ財団「令和5年7月豪雨災害支援基金助成事業」 76,739円

赤い羽根ボラサポ 令和5年7月豪雨 760,000円

企業支援

大和ハウスグループ「2022年度エンドレス募金」 寄付金額：総額 1,140,000円

Yahoo!ネット募金

令和4年6月より継続。令和5年度の寄付額合計は391,120円、累計1,107,819円

その他

事業収入：449,770円（防災講座、しつけ、イベント対応など）

【佐賀県支部】

佐賀県支部は2016年の熊本地震をきっかけとして立ち上げた。当時九州圏域では災害救助犬の派遣に関する協定は一つもなく活動に支障をきたした。このことから佐賀県に拠点を構え地域に根付いた活動を行うことで協会活動全体の認知拡大を目指している。このことで九州圏域では福岡県に続き2つ目となる佐賀県との協定締結が2024年3月21日に実現した。これは災害救助犬の派遣にとどまらずセラピードッグによる被災者支援、ペット飼養世帯支援が含まれる包括的な協定内容となった。

佐賀県杵島郡大町町拠点「MORE WAN」にて事業を展開中。平時には防災に関する講座やイベント、災害時にはペット同行・同伴避難所としての運営を継続している。特に官民一体となったペット同行・同伴避難所を大町町と連携して運用していることが県内外多くの自治体や組織に注目され研修・視察等受け入れの依頼は多い。加えて佐賀県内の災害中間支援組織である佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）は「MORE WAN」敷地内に隣接する大町町所有建物「ソレイユ」の指定管理を任せ、ここと連携することで災害時の活動を円滑にするだけでなく平時より防災に関する研修や講座などの取り組みを行うことで佐賀県の防災・減災力の向上に共に寄与している。また新たに一般のお客様を迎え入れるためにドッグランエリアおよびキャンプ場エリアを整備しプレオープンさせた。一定数の利用客の受け入れには繋がった。今後キッチンの設置や訓練エリアの整備を経て拠点のグランドオープンを目指し、益々の利用客の受け入れに繋げていく。

災害救助犬の育成については中長期計画として、まずは本部にて2年間ハンドラー（2024年4月入職）と災害救助犬（2024年6月導入）を育成する計画を実施中。

○活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達を継続

ふるさと納税寄付額 21,587,318 円（令和5年9月～令和6年8月末）

2023年9月8日～2023年12月6日（90日間）ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額100万円のGCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「発災時、迅速に支援に繋がる体制づくりを構築したい！」1,325,015円集まり、目標金額の132.5%にて終了。

また、能登半島地震発災後の2024年1月5日～2024年3月4日（60日間）、同様のテーマにて2度目のGCFを実施。865,100円集まり、目標金額の86.5%で終了。

- ・地域おこし協力隊として佐賀県支部職員が活動継続中

地域おこし協力隊前期精算（2023年7月1日～2024年3月末日）：3,304,737円

地域おこし協力隊予算（2024年4月1日～2025年3月末日）：4,376,920円

○災害救助犬事業

- ・佐賀県消防学校研修

佐賀県内5消防本部次期救助隊員への研修として、災害救助犬の概要、運用に関する講義および捜索活動デモンストレーションを実施。佐賀県内での災害救助犬の活動実績は少ないため災害救助犬への理解を深められる機会となった。

○セラピードッグ事業

- ・2023年9月18日NPOSTワンヘルス研修ツアー視察受け入れ。

○動物福祉事業関連

- ・日本財団主催事業受託。ペット同行・同伴避難体験およびペット防災講座を大町町と白石町で開催。

○大町町地域おこし協力隊

・地域おこし協力隊研修会

2023年9月15日、佐賀県地域おこし協力隊研修会が行われた。研修会では2名の講師が講演され、地域おこし協力隊として経験されてきたこと、現役の方へ伝えたいこととお話いただいた。また、地域おこし協力隊研修会は定期的開催されている。

・大町町恵比須地区 MOREWAN 見学

2023年10月12日、大町町にある恵比須地区の方10名が MOREWAN 施設の見学に来られた。サロン活動の際に MOREWAN 施設の紹介をした際、実際に見てみたいというお声をいただきこれを機に日本レスキュー協会の活動紹介、佐賀県支部 MOREWAN 施設の仕組み、施設案内を行った。

大町町に拠点を構える私たちにとって、地元の方々に興味関心を持っていただき、とても嬉しく感じた。

・大町町絆サンマ祭り

2023年11月12日大町町民健康広場「オリオンプラザ」で開催された『絆サンマ祭り 2023』に参加。『被災地から被災地へ「恩返し」』をテーマに、地元の学生やボランティアの方々、飲食店などの地域住民の皆さんや豪雨災害で支援活動をしていた団体の方々と一緒に、ブース出店やステージイベントを行う。日本レスキュー協会は、被災地での活動写真の展示、ブース出店ではペット用防災グッズの展示、販売、募金活動を行った。

復旧・復興の象徴イベントとして開催され、会場ではシンガーソングライターのさだまさしさんが設立した「風に立つライオン基金」から気仙沼産の1,000尾のサンマが支援の輪として無料提供された。

・中野建設オーナー様感謝祭

2023年11月19日、中野建設オーナー様感謝祭に参加。ブースでは日本レスキュー協会の紹介パンフレット配布、募金活動を行った。

・能登半島地震被災地支援活動

2024年1月20日、1月1日に起きた能登半島地震の被災地へ支援活動を行った。被災地に入り災害救助犬による行方不明者捜索活動、情報収集・共有を行う。ペット飼養世帯への支援として各避難所での支援物資の設置、戸別に訪問し支援物資の提供を行うと同時にペットの一時無料預かりの支援などを紹介。その他多様な困りごとがないかなど聞き込み調査を行った。

・MOREWANDAY イベント

2024年1月28日、佐賀県支部 MOREWAN でイベントを開催。イベントではペット防災講座、避難所体験会、しつけ相談教室、ペット用おやつ、物販販売、募金活動などを行った。当日、多くのお客様に足を運んでいただき大盛況であった。また、災害救助犬のデモンストレーションを行い日本レスキュー協会の活動を知っていただく機会となった。

・MOREWAN フェス

2024年2月17日、佐賀県支部 MOREWAN で第二回目のイベントを開催。1月同様多くのお客様に足を運んでいただいた。MOREWAN フェスではペット防災講座のほか、立体地形模型防災ワークショップ、災害救助犬のデモンストレーション、物販販売、募金活動などを行った。お客様の中には1月に来ていただいたお客様もいらっしやっった。

・大町町婦人会 MOREWAN 視察

2024年4月17日、大町町婦人会20名がMOREWANの視察に来られた。日本レスキュー協会の活動の紹介や佐賀県支部MOREWANがペット同伴避難所であることを紹介した後施設案内を行った。参加された方の中ではMOREWAN施設を知らないという方がいらっしまったため、この機会に近隣の方への啓発のお願いをした。

・能登半島地震被災地支援活動

2024年4月21日、2回目の被災地支援活動を行った。1月同様、情報収集・共有を行う。避難所へ支援物資の設置、各家に訪問し支援物資の提供を行う。1月2月に支援活動を行い、これらの経験を地域おこし協力隊でペットを飼われている飼い主へ伝えるため現場の写真や資料をまとめる。

・大町町立小中一貫校大町ひじり学園

2024年6月6日、大町町小中一貫校大町ひじり学園にて防災学習で7年生(54名)、6年生(39名)に被災地支援活動の講座を行った。大町町は令和元年、3年に豪雨で被災し、住民の方も防災の意識は高まっている。そこで子供たちには地震での被害を主に話した。能登半島地震での実際の写真を使用し、避難所での生活の厳しさを伝えた。講座後には積極的に質問をし、有意義な時間を過ごせたと感じている。

・大町町区長会

2024年6月25日、大町町役場で行われる区長会に出席、各区長の方へ地域おこし協力隊での活動を報告。また、今後の活動でペットを飼われている方へMOREWAN施設の啓発活動の協力とお願いをした。

・MOREWAN ペット防災七夕祭り

2024年7月7日、佐賀県支部MOREWANで第三回目のイベントを開催。イベントではペット防災講座、大町町名物たろめん、キッチンカー、犬用プールを設置。ペット防災講座では初めて聞くという方がほとんどだった。講座の中で能登半島地震や大町町豪雨のできごとを話しながらペットのためにも防災対策が必要であることを話した。

・白石町女性団体協議会防災講座

2024年7月28日、白石長女性団体協議会へペット防災講座を行った。約30名が参加。ペット防災講座では日頃から人もペットも対策はできているのかと参加者と一緒に考えられるよう行った。参加された方へMOREWAN施設があることを聞いたところ大半の方が知らないと答えた。講座終了後にはペット同伴避難所があることを知るだけでも少し安心したと回答をいただいた。

○大町拠点「MORE WAN」に関して

令和4年4月に稼働開始した大町拠点「MORE WAN」は、ふるさと納税の寄附金を主な財源として引き続き佐賀県西部の災害支援拠点としても稼働している。災害時また災害発生子測時にはペット同行・同伴避難所として活用される。また継続的に九州ブロック社会福祉協議会の支援資機材の保管場所に活用されるための仕組みを持っている。

【ペット同行避難所開設・閉鎖】

- ① 令和6年6月27日 18:00～6月28日 8:10
- ② 令和6年7月1日 12:30～7月2日 14:40
- ③ 令和6年7月14日 19:30～7月15日 16:20

④ 令和6年8月29日 9:00～8月30日 8:20

【避難訓練・イベント開催等】

- ・令和5年10月14日 令和5年度佐賀県原子力防災訓練参加
佐賀県玄海町の玄海原子力発電所の事故を想定して県下で行われる訓練であり、MORE WAN はペットと一緒に避難された方の受け入れ態勢の指導として参加。合計5世帯(5名/5頭)の受付訓練を手順に沿って実施。
- ・令和5年9月30日 ペットとの避難 実現のための取り組みを考える会
日本財団主催のイベントを開催。参加者3名で、ペットとの避難を考えるための講座を行う。昼食には非常食の試食会を行った

【イベント出展】

- ・令和5年11月12日
「大町町絆サンマ祭り 2023」物販、募金活動、活動写真の展示、パンフレット配布
- ・令和5年11月19日
「中野建設オーナー様感謝祭」募金活動、活動写真の展示、パンフレット配布
- ・令和5年11月26日
「かしまわんにゃんフェスティバル」物販、募金活動、活動写真の展示、パンフレット配布

【企画広報事業】

■収入

- ① 会費収入 実績 9,679,505 円 (計画▲400 万、前年▲100 万)
ドッグスポンサーのみ計画・前年共に達成 (計画+74 万増、前年+43 万増)
大きなマイナスは法人会員 46 法人 208 万 (計画▲470 万、前年▲140 万)
年間 60 企業の法人会員目標としていたが、
新規会員 10 企業 410,000 円 未更新 33 件▲1,380,000 円
法人会員様への更新案内が 1 月以降より出来ていない為、早急にご案内を開始する。
- ② 寄付金収入 実績 191,107,005 円 (計画+9,215 万、前年+9,950 万)
能登半島地震でのご寄付で Yahoo ネット募金・能登半島地震支援で 1 億近くのご支援となった。
募金箱収入 4,101,366 円 (計画+60 万、前年+75 万)
計画・前年共にプラスの結果。(店舗数については計画未達) 回収店舗数増やしたことでのプラス。
募金活動・イベントでは計画 3,200,000 円に対し 1,313,652 円と▲1,886,348 円 (募金のみ)
物販売上 1,296,342 円と計画 1,862,357 円に対し▲ 566,015 円、前年▲ 663,658 円。
イベントの回数が下半期から活動を実施できたが能登半島地震での活動で回数が減、また物販のアイテム数も減り、更新されていないので購買意欲に繋がらない。
READYFOR 継続寄付については 130,000 円の結果 計画の 2,700,000 円に対し▲2,570,000 円
開始が 2 月からとなり、遅れてしまったこと、当初の計画していた予測を遥か下回る動きになってしまった。キャンペーン型については展開できなかったことが原因。目標設定のミスと判断します。
- ③ 助成金収入 実績 4,824,088 円 (計画▲598 万、前年▲5,100 万)
計画でのマイナスは地域おこし協力隊補助金▲385 万、前年については休眠預金助成金での▲4,800 万。本年度は休眠預金助成金無し。企画広報として新たな助成金獲得無し。
Intrepid Japan 寄付金 (助成金) 獲得 (第 4 四半期ごとに入金 250,000 円×4 回=1,000,000 円)
キャンペーン型で 10,000,000 円の寄付を募る。旅行先の一つに本部・佐賀県支部に来ていただき、施設見学及び訓練見学などを実施していく。(その際にも募金活動や物販販売実施)
契約に時間が掛かり令和 6 年度からのスタートとなる。
- ④ 事業収入 実績 12,476,971 円 (計画▲26 万、前年+382 万)
佐賀県収入のみ計画・前年共に達成 (計画+135 万、前年+334 万)
広告収入として計画について 1,000,000 円設定していたが、令和 5 年度については 0 という結果。
大東建託様よりお問合せありましたが令和 5 年度では実現無し。営業活動が出来ていないのが現状
- その他
取り組みでの HP リニューアルについては年度内での更新が未完成の為、今年度へ持ち越しとなる。
データベース移行や能登半島地震対応で実施出来ていない。支援に繋がる HP 作成を行います但しマイナスのカバーが出来なかった。
取り組みでの HP リニューアルについては年度内での更新が未完成の為、今年度へ持ち越しとなる。
データベース移行や能登半島地震対応で実施出来ていない。支援に繋がる HP 作成を行います但しマイナスのカバーが出来なかった。

■ご寄付ご支援

- ・ザッシュ 商品売上一部を当協会へ寄付・10/3 大阪危機管理室 備蓄品提供 毛布 15 ケース
- ・ブルクラード橋口 カタログギフト支援・森乳サンワールド 毎月フード支援
- ・能登半島地震での支援
エコートレーディング(株)・ペットバリュー(株)・(株)わんわん・(株)ミシュワン・犬猫生活(株)・
BuWo's choice・Limited Members Associate 株式会社 以上